

海運の重要性を学校教育の場で ～横浜市と四日市市において教員向け商船見学会を実施～

当協会では、日本を支える海運の役割や重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しています。

今般、8月4日（日）に横浜市にて、8月8日（木）に四日市市において、それぞれ教員向けの商船見学会を実施しましたので、その模様をお知らせします。

1. 自動車船の見学会（8月4日（日） 横浜港）

8月3日（土）・4日（日）に横浜市で開催された「海洋都市横浜うみ博 2024」において、日本郵船が8月4日（日）に横浜・大さん橋で自動車船「CENTAURUS LEADER」の船内見学会を実施しました。

これに合わせて当協会は、日本郵船の協力のもと、小中学校の教員など約20名を対象とした特別見学会を開催しました。6,500台以上の自動車を積載できる全長約200m、全幅約32mの巨大な船に乗り込み、船倉（貨物スペース）において車の積み付けデモンストラーション等を見学した他、船の操縦を行う船橋（ブリッジ）では、航海士からレーダーや電子海図等さまざまな航海計器について説明を受けました。



参加した教員からは、「積み付ける床に車を固定する「ラッシング」用の穴が開いていたり、積荷に合わせて床の高さが調整出来たりする工夫に驚いた」

「実際に見学して新たに知ったことが多く、子供たちにも教えたい」等の声が聞かれました。

2. LNG 燃料内航貨物船の見学会（8月8日（木） 四日市港）

8月8日（木）に鳥羽商船高等専門学校のOBが中心となり活動するNPO法人 故郷の海を愛する会と共催で、三重県内の小中学生約60名を対象に四日市港停泊中のLNG燃料内航貨物船（鉱石運搬船）「いせ みらい」と川越電力館テラ46・LNG基地の見学会を実施しました。

この機会を捉えて当協会は、協同海運をはじめとする関係者の協力のもと、小学校教員を含む約10名を対象に本船の見学会を開催しました。日本の内航貨物船で初のLNG



燃料船となる全長約120m、全幅約18mの船に乗り込み、船の操縦を行う船橋（ブリッジ）で航海士から航海計器やLNG燃料の取扱い資格等について説明を受けた後、機関室（エンジンルーム）において機関士から主機関の仕組みやLNG燃料タンク等の本船の特徴について説明を受けました。

参加した教員からは、「貨物船を実際に見たのは初めてで関心が増した」「船の大きさに驚いた」等コメントが寄せられました。



当協会では、今後もこのような繋がりを活かし、学校授業での海運の説明に活用いただくべく、活動を推進してまいります。

以上